

## 【水の里の旅コンテスト2018 応募企画】

### 【学生部門】

林 美紗（和歌山大学 観光学部 観光経営学科）

『水の森「百間山溪谷」と古の道「熊野古道」 自然 × 歴史 シンクロナイズド・ウォーキング』

（観光地域：和歌山県 田辺市）

【日程】	1泊2日		
【実施時期】	春・夏・秋（実施時期：4月～11月）		
【催行人員】	4名（最少催行人員：2名）	【お勧めする旅行者層】	首都圏の女性
【旅行代金】	【内 訳】		
	タクシー代（4名利用）1名あたり16,000円（1台あたり8時間利用32,000円×2日間） 安居の渡し乗船料 500円 炭作り体験料 1,500円 百間山溪谷ガイド代 3,000円 1日目昼食代 1,150円（リバーサイドカフェ四季） 2日目昼食代 1,100円（赤木溪水郷）又は（シャリ半） 霧の郷たかはら1泊2食 9,000円（4名1室の場合）入湯税：150円 えびね温泉入浴料 600円 ※消費税・サービス料込		
	<b>33,000円</b> （大人1名）		
【企画趣旨（伝えたいポイント及び旅行者が満足するポイント）】			
<p>着地型ツアーとします。（白浜空港または関西空港着を想定）今回は最大のマーケットと考えられる首都圏の女性をターゲットに白浜からのモデルプランを提示。ツアー中は貸切りタクシーで移動していただきます。</p> <p>初日は、世界遺産「紀伊山地の霊場とその参詣道」を構成する熊野古道を訪れます。このツアーでは水辺とかかわりがある地域として「安居の渡し」で日置川を渡し、仏坂までのプチウォーキングを体験。渡し船から、古と変わらない日置川の澄み切った水の美しさを体感します。（熊野古道大辺路街道で渡し船が体験できる唯一の場所です。）</p> <p>渡し場近くの「備長炭研究所」では、和歌山県の特産品備長炭づくりの体験をする中で、里山と里人、自然との共生を学びます。さらに足を延ばして、熊野詣の逸話として有名な「安珍清姫」の物語、清姫ゆかりのお墓や寺院も訪問します。その歴史に思いを馳せた後、熊野古道の宿「霧の郷たかはら」にチェックイン。</p> <p>2日目の朝は、天候・気象条件にもよりますが宿から素晴らしい雲海がご覧いただけます。</p> <p>百間山溪谷では、熊野百間溪谷自然学校のガイドさんとともに、トレッキングを楽しんでいただきます。全長3kmのコースは大小の滝や淵、奇岩、吊り橋や岩のトンネルなど水が創りだした絶景や、冒険心をくすぐるような見どころが次々と現れます。高低差もそれほどなく、なだらかなコースはアクティビティ好きの方はもちろん、トレッキング初心者の方でも楽しんでいただけることでしょう。</p> <p>最後に立ち寄る「えびね温泉」では、ガラス張りの浴場から美しい日置川渓流を眺めながらゆったりと入浴していただき、トレッキングの疲れを癒してください。</p>			
【安全確保のための配慮】		【旅行者の満足感を高めるための工夫、快い旅行にするための配慮】	
安居の渡しでは、常時2名の船頭さんにより万一の事故にも対応。 百間山溪谷トレッキングでは、百間山溪谷を知り尽くしたベテランガイドさんと、安全なトレッキングを楽しんでいただきます。 （万一に備え、熊野百間溪谷自然学校へ入山届も提出） 参加者の年齢・体力に応じた対応をしていただけるので安心です。		レンタカー利用の場合運転者に負担がかかりますが、人数に応じた貸切りタクシー（4名までセダン、5名以上9名まではジャンボタクシー）を利用し、道に迷うことなく効率的に目的地へ移動。途中の車窓風景も全員で楽しむことができます。	
【企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】	【企画協力（後援）機関・団体名等】	【主な役割】
① 熊野百間溪谷自然学校	現地ガイド手配	⑤ 安居の渡し保存会	渡し舟体験
② 大塔観光協会	現地情報提供	⑥ 備長炭研究所	炭作り体験
③ リバーサイドカフェ四季	1日目昼食	⑦ 赤木溪水郷 9月末までの営業 シャリ半 10月以降	2日目昼食
④ 霧の郷たかはら	宿泊（夕食・朝食）	⑧ ゆたか旅案内所	交通・宿泊手配
【特記事項】	※ ⑦の昼食は10月以降、「シャリ半」のお弁当「ダルの腰弁」に変更致します。古来より熊野では、山に入ると弁当は全部食べきらずに一口残しておかねば、ダル（妖怪）にとりつかれて一步も動けなくなると言い伝えられてきました。「熊野の山は奥深く、何が起きかわからないから」と戒め伝えられています。生きて帰った旅の思い出に！(^_^)！		
【催行実績】	無		

【 行 程 表 】	
1 日目	南紀白浜空港発 09:00  安居の渡し場着 09:30  対岸より  仏坂ウオーキング (80分)  (JAL213 便 08:40 白浜空港着を想定) 安居の渡し場発 11:00  備長炭研究所着 11:10 炭作り体験 (60分) 備長炭研究所発 12:20  リバーサイドカフェ四季着 13:10 昼食 リバーサイドカフェ四季発 14:10  清姫の墓着 14:15 清姫の墓発 14:30  福巖寺着 14:35 拝観・見学 福巖寺発 15:35  霧の郷たかはら着 16:00
2 日目	霧の郷たかはら発 08:00  百間山溪谷着 09:10  トレッキング (3 時間) 百間山溪谷発 12:20  赤木溪水郷着 13:05 昼食 赤木溪水郷発 14:00  えびね温泉着 14:45  えびね温泉発 15:45  (10 月以降はシャリ半のお弁当) 南紀白浜空港着 16:20 (JAL218 便 18:35 白浜空港発を想定)

【 主な観光ポイント（観光地・観光箇所の歴史、由来、土産品など） 】

【 安居（あご）の渡し 】	【 仏坂ウオーキング 】
 <p>日置川は、熊野の山岳地帯に水源をもち、その澄み切った美しさで「紀伊半島最後の清流」とまで讃えられています。</p> <p>安居の渡しは、熊野古道大辺路「富田坂」を下った安居の集落から仏坂へ、日置川を渡る渡し舟です。今の川幅は 30m程ですが、昔は約 80mありかなりの水量で、木造の川舟が昭和の初期まで行き来していたそうです。大辺路道では唯一、舟で渡る熊野古道です。</p>	 <p>仏坂は、安居の渡しで日置川を渡った対岸から、すさみに通じる古道です。開発の手がほとんど入っておらず、熊野古道大辺路の中でも特に古い面影を残したコースです。仏坂の途中には、昭和初期まで営業されていた仏坂茶屋の跡地があります。江戸時代から人々に休憩所として利用され、大正 3 年から昭和 10 年の間には「三宅牛」と呼ばれる地元の牛の売買も行われていたそうです。この仏坂茶屋跡まで熊野古道の自然を感じながら歩いていただき、再び安居の渡しに戻ります。</p>
 <p>備長炭研究所では炭作りを体験して、和歌山県無形文化財の「紀州備長炭」ができるまでを学ぶことができます。</p> <p>備長炭の原料は和歌山県の馬目樫です。太平洋の活岸などの急傾斜の岸地でよく育ち、伐採されてもすぐに伐採後の株から新しい芽が出て、20 年～30 年でまた伐採できるそうです。</p> <p>また杉、檜などの針葉樹と違い、大地に根を広くはり、保水力に優れるため、山くずれや土砂くずれの災害を防いでくれるそうです。</p>	 <p>(写真提供 リバーサイドカフェ四季) ドライブの途中、自然を感じるカフェ四季でランチをとります。</p> <p>テラス席では、春の桜から始まり、新緑、紅葉と季節ごとの自然を眺めながら、ゆったりとした時間を楽しむことができます。</p> <p>日本料理店で腕を磨いた料理人が作る、自家菜園の無農薬野菜をたっぷりと使った日替わりランチがおすすめで、優しい味付けの品々は幅広い世代に人気です。</p>
【 備長炭研究所 】	【 リバーサイドカフェ四季 】
 <p>備長炭は江戸時代、紀州田辺藩城下で代々回船問屋を営んでいた備中屋長左衛門が、その標商を備長炭としていたのがはじまりといわれています。</p> <p>和歌山では伝統技術を継承して、後世に残して行く努力をしているとのこと。</p> <p>私たちが手にしているのは自分で焼いた備長炭をお持ち帰ります。</p> <p>玉井満代表によりますと、里山が荒廃していく問題についても、炭木を切る事によって里山本来の姿に戻っていくのではないかと考えているとのことでした。</p>	

【 清姫の墓 】



世界遺産熊野古道を歩いてゆく熊野詣にまつわる最も有名な物語は、「安珍清姫の物語」ではないでしょうか。そのヒロイン清姫は、熊野古道「中辺路」が通る和歌山県田辺市中辺路町の真砂（まなご）という集落が出身地だとされています。真砂の富田川のほとりには清姫の墓と伝わる石塔が残されていて、それには「煩惱の焰も消えて今ここに眠りまします清姫の魂」とのご詠歌が刻まれています。悲恋のストーリーに思いを馳せましょう。

【 福巖寺 】



古来より蟻の熊野詣と言われるほど盛んだった熊野への旅は熊野三山への参詣を終着点としますが、そこに至る長く険しい道程そのものが祈りの対象でもありました。

その道中に位置する福巖寺は、清姫一族の菩提寺となっており、境内には清姫堂が建立されています。また熊野曼陀羅三十三ヶ所霊場の 10 番札所にもなっています。

【 霧の郷たかはら 】



(写真提供 霧の郷たかはら)

標高 320m の視界を遮るものがない里山に、霧の郷たかはらがあります。大自然に囲まれたこのお宿では、条件がそろえば、朝に眼下に雲海が広がる幻想的な風景を見ることができます。地元の間伐材を使った薪を焚いて沸かされた、まるで肌あたりの良い温泉で一日の疲れを癒してください。夕食は、地元の生産者から直接届けられた朝採り野菜やとれたて川魚を使用したお料理をお楽しみいただけます。

【 百間山溪谷 】



百間山溪谷は深い原生林に覆われ、滝・淵・峡の宝庫です。全長約 3km にわたって、奇岩や甌穴、大小の滝がつらなり、約 100m ごとに繰り広げられる水が創り出した自然美の競演が見事です。きつい高低差が無く歩きやすいコースなので、トレッキング初心者の方でも楽しんでいただけます。紀州路 20 景人気投票 NO. 1 に選ばれた大自然の中で、霧と溪谷のパノラマを満喫することができます。



熊野百間溪谷自然学校のネイチャーガイドによるガイドウォークでは、個人で歩くだけでは気づかないような、紀伊半島の成り立ちを伝える溪谷の特徴、四季折々の樹木、水辺の花や生き物を案内していただきます。道中には、一度に 2 人しか渡れない吊り橋や岩のトンネルなど冒険心をくすぐるポイントもたくさんあります。時期により水と触れ合うこともできますので、溪流の清々しさを直接体感してみましょう。



写真は折り返し地点の「乙女の滝」。接着剤など使わず積み上げる「石積みアート（ロックバラランシング）」に集中している人（カップルでいらした観光客）をお見かけしました。そしてお見事に完成させたのがこちらです。

大自然のせせらぎの中、素晴らしいアート・パフォーマンス！あなたも挑戦してみませんか？

【 赤木溪水郷 ～9月まで 】



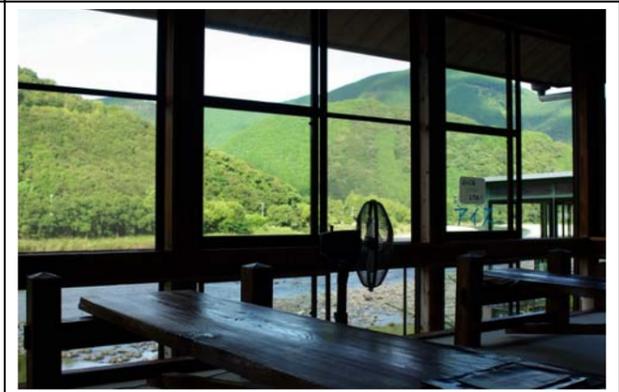
(写真提供 NPO 法人 市民の力わかやま) 国道 311 号から鮎川新橋を渡り、百間山溪谷方面に県道 221 号を約 1.5km 進むと、右手に「赤木溪水郷」、「流しそうめん」の案内板が見つかります。ここでは溪流の豊かな清水を利用してニジマスと鮎の養殖が行われていて、塩焼きやあらいにして出してくれます。溪流の涼しい風をうけて食べる流しそうめんの味もまた格別です。

【 シャリ半 10月以降 】



しゃり半では「ダルの腰弁当」を。妖怪ダルとは山で飢えて死んだものが悪霊になって、人に取り憑くのだといわれています。昔の人は山へ行って弁当を食べるときは、飯粒を一粒でもいいから妖怪ダルのために残しておくようにしていたそうです。熊野・田辺に在住した世界的博物学者南方熊楠も熊野山中で取り憑かれたことがあるといわれています。

【 えびね温泉 】



日置川溪流に面した、全面ガラス張りの解放感たっぷりの浴場で、日置川や周辺の山々の大自然を望みながら、トレッキングの爽やかな汗を流しましょう。源泉 100%のお湯が自慢です。施設内の食事処では、温泉水を使ったうどんやコーヒーを味わうことができます。美容と健康に良い成分がたくさん入った、飲んでよし入浴してよしの温泉を堪能して下さい。